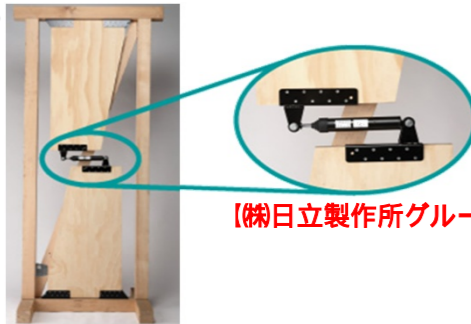


構造用合板と筋かいを併用した強固な耐力壁

建物外周部壁面には全て**構造用合板**を施工し、さらに建物内部には**筋かい**を設置。面構造と軸組構造の両方の良さを取り入れ、バランス良く配置することで高い耐震性を実現します。

壁内に「Hiダイナミック制震工法」

Hiダイナミック制震工法は、高層ビルなどで使用されているオイルダンパによる地震対策技術を日本で初めて戸建住宅に適用した工法です。阪神・淡路大震災クラス時、建物の揺れを本物件は最大**約2.5%**低減します。



【株式会社日立製作所グループ製】

鉄筋コンクリートべた基礎

建物の床下全面に鉄筋を配筋し、コンクリートを打設。建物を「面」で支える**ベタ基礎**を採用しています。

- ・ベタ基礎は建物の荷重を分散する効果があり、地震時の揺れに対しても高い強度を発揮します。
- ・すべてを基礎でおおうため、地下からの湿気が上がらず、防湿性に優れています。
- ・白蟻の被害が非常に少ないです。
- ・一体の基礎なので地震に対して強いです。

基礎パッキン工法

住宅の耐久性を高めるため、床下全周換気を取り入れた「**基礎パッキン工法**」を採用。

- ・ムラのない全周換気でコーナーの隅々まで換気します。
- ・床下の乾燥状態を維持し、腐朽菌の発生を未然に防ぎます。
- ・土台がコンクリートの水分を吸収するのを防ぎます。
- ・土台の適度な乾燥化により腐れを防ぎ、シロアリが寄り付きにくくなります。

ホールダウン金物設置

柱を直接コンクリート基礎に緊結するための接合金物です。地震の揺れによって、建物の柱が土台から引き抜かれるのを防止します。1階では基礎・土台・柱、2階では上下階の柱と柱、又は柱と梁に取り付ける、耐震性を確保する重要な補強金物です。



イメージパースです。
(本物件には、一部植栽・車は含まれておりません。)

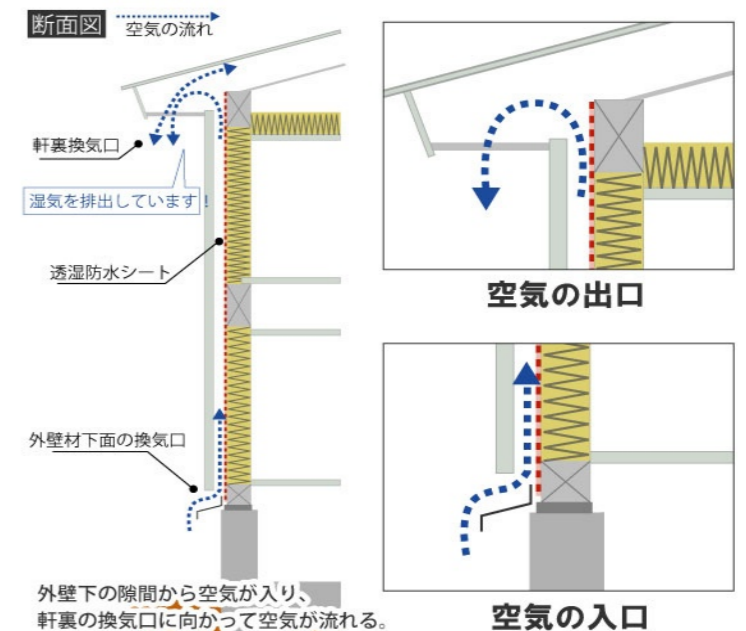
ノンアスベストの屋根

地震大国と呼ばれる日本の暮らしにおいて、住まいの耐震化は非常に重要な課題。一般的に建物の揺れを軽減するには、建物の重量を軽く、重心を低くすることが有効とされています。重量が一般的な陶器瓦の**1/2以下の「軽い屋根」**。万一の地震にも暮らしの安心を護ります。



通気工法

室内と室外の温度差が生じる外壁内部。目に見えないこの部分には、温度差による結露(壁体内結露)が発生しやすくなります。結露は、腐朽菌やシロアリなど、重要な構造材にダメージを与える原因になることがあります。また、健康を害するカビやダニの発生をひきおこすことがあります。壁の中の**通気層**を新鮮な空気が流れるテクノロジーは、壁の中の湿気を屋外に排出し、構造性能をいつもベストな状態にたもちつづけます。



地震に強い外壁

地震の際、重い建物ほど地震の力が大きくかかります。軽量設計の外壁材であれば住まいの総重量が抑えられるため、地震時の**建物の揺れが軽減**できます。



居室窓に**三協アルミ**のペアガラスを採用

2枚のガラスの間に乾燥した空気の層を閉じ込めたガラスのことを**ペアガラス(複層ガラス)**といいます。冷気・暖気の最大の侵入口である開口部において、複層ガラスを採用すると断熱効果が高まり、快適性がアップ。住宅の**省エネルギー化に貢献**します。冬暖かく、夏涼しい室内温度を保つことができます。また、複層ガラスは結露を抑えたり、遮音にも効果を発揮します。

